

# 公益財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

## 2022(令和4)年度 事業報告書

### 目次

I. 基本方針	1
II. 個別事業	2
II-1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む	2
II-2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる	8
II-3 公害経験を伝える国際交流	13
III. 情報発信・提案活動・交流	14
IV. 組織	16

# I. 2022 年度の総括

---

2022 年度も、新型コロナの影響が長期に亘っていること等から十分な事業展開が困難な状況が続いていたが、後半から、感染対策を徹底しながら対面での事業展開が徐々に行われるようになり、また、オンラインの活用などによる新たな事業も行った。

2022 年度においても、①「環境・福祉・防災・文化・生業」から、西淀川の地域再生に取り組む、②公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる、③公害経験を伝える国際交流（情報発信・研修）が事業の 3 本柱の取り組みを行った。概要は以下の通りである。

- ① 「「環境・福祉・防災・文化・生業」から、西淀川の地域再生に取り組む」では、みてアート 10 周年、西淀川アートターミナル（NAT）活動などアートを軸にした地域づくりを継続して取り組んだ。また、公害健康被害補償法（公健法）被認定者の療養生活に係る調査業務では、これまで明らかになっていなかった中壮年層の被認定患者からヒアリングを行い、療養生活の実態、将来への悩みや現制度での課題を把握することができた。
- ② 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てるでは、コロナ対応を行いつつ、講師派遣・研修受入が増加し、また、資料集の作成作業では、資料研究会を重ね、編集委員会を開きつつ、資料集の作成が進んだ。また、エコミューズ活動報告書も 6 年ぶりに発行した。
- ③ 公害経験を伝える国際交流では、コロナ禍で往来が困難なアジア地域の環境 NGO とオンラインでつながりを継続した（主に中国）。

また、財団運営の面では、少人数での業務遂行を余儀なくされたが、財政的には基金からの取り崩しを最小限にするなど一定の改善が見られた。

## II. 個別事業

### II-1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川地域の再生に取り組む

#### 2022年度目標

- 2020年度に実施することができなかった、西淀川地域の資源活用WGについては、様々なステークホルダーとの協働の中で地域からの視点（現状・課題・展望）を整理し、将来目標に向けたロードマップづくりを進める。
- SDGsやバリアフリー新法の改正、MaaS（Mobility as a Serviceの略）、自転車活用推進、公共交通網の再編、COVID-19の影響による移動の変化など、交通を取りまく新たな動きを踏まえて、「西淀川交通・道路環境再生プラン・提言 Part7」の作成を進める。
- 2020年より世界的に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して、2022年度の活動、及び将来的な大阪・西淀川地域のあり方についても改めて見直していく。

#### 2022年度取り組み

26 地域づくり推進・再生

#### 1. 地域再生：地域資源の活用によるまちづくり

##### ① 事業のねらい

- 地域資源の現状・課題を整理し、住みたいまち、働きたいまち、安心できる暮らし、うるおい・文化のあるまち、誰もが生きやすいまち、公害を教訓とした環境再生のまちづくりを進める。

##### ② 実施内容

- もと歌島橋バスターミナルにおいて、西淀川アートターミナル（NAT）企画展を8月と9月、11月、3月に、西淀川フードバンク（9月）、コスプレイベント（5、7、9、11、12月、1月、2月）を開催し、地域交流拠点として定着しつつある。
- 10年後の福駅周辺のまちづくり構想を検討する、福駅周辺活性化協議会を発足させた（6月）。また、福ハッピーフェスタ（5/12、9/25、12/4）を開催した。
- 大野川緑陰道路の新たな活用に向けて、11月みてアートにて、西淀川区役所と協働で緑道ギャラリー展とワークショップを実施。
- 2019年4月より、大阪市立大学・除本理史教授、龍谷大学・清水万由子准教授の協力により、西淀川区を中心に、大阪の経済・産業（特に製造業）の将来像について検討する「西淀川・地域再生研究会」を継続して開催。

##### ③ 成果と課題、今後に向けて

- 西淀川区内の地域資源（もと歌島橋バスターミナル、大野川緑陰道路、福駅周辺など）を活かして、地域の活性化に貢献する取り組みに実施し、様々な団体や個人の協力を得て、継続的に活動を行うことができた。持続できる体制づくり、活動資金の確保などが今後の課題である。

## 2. 交通再生：交通マネジメントセンター機能の強化

### 1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

#### ①事業のねらい

- ・ 患者会の願いである「手渡したいのは青い空」を実現するために、人にも環境にもやさしい地域交通まちづくりを目指して、西淀川道路環境対策連絡会、実務者ワーキング会議を通じて、原告、弁護士と協働で取り組む。

#### ②実施内容

- ・ PM2.5 の濃度は、3 年連続で西淀川区内のすべての測定局において環境基準を下回ったことを確認。ワーキング会議（7/26、1/16）では年度内の取組みについて議論した。事前会議（2/2）を経て、リアルとオンラインの併用による道路連絡会（3/16）を開催した。
- ・ 7/26 のワーキング会議において、淀中学校の大気汚染常時監視測定局が校舎建て替え工事に伴い、令和 2 年度で測定を終了したことがわかった。患者会では、大阪市に対して淀中測定局廃止に関わる要望書を提出、意見交換（11/1）を行った。
- ・ 道路連絡会の議論に基づき、大気常時観測局において公害訴訟がきっかけに測定を始めたことを示す PR 看板が、2022 年 1 月に大和田局に、2022 年 5 月に新佃公園前局に、2022 年 9 月に歌島橋交差点、大和田西交差点において設置された。
- ・ 2019 年度より研究者を中心に西淀川道路交通環境再生プラン会議（委員 10 名）を組織しているが、会議が休止中となっている。

	項目	日程
道路連絡会	実務者ワーキング 1 回目（大気、交通量、測定局看板等）	7/26
	実務者ワーキング 2 回目（大気、交通量、測定局看板等）	1/16
	事前会議	2/2
	道路連絡会	3/16
研修	大阪大学交通まちづくり学授業（谷内）	5/9、5/23

#### ③成果と課題、今後に向けて

- ・ 大気常時観測局の PR 看板の設置が区内 4 か所において設置された。
- ・ PM2.5 濃度が 3 年連続で環境基準を下回り大気汚染は改善しつつある。
- ・ 淀中学校の大気汚染常時監視測定局について、引き続き、大阪市と話し合う。

### 2) 自転車を活かしたまちづくりの推進

#### ①事業のねらい

- ・ 大気汚染や渋滞などの深刻な交通問題を引き起こす車の代替手段として、環境にも健康にもやさしい自転車の利用の推進をはかる。
- ・ 誰もが移動しやすい交通環境づくりを目指して、移動困難者を対象としたユニバーサル・サイクルの調査・提案、情報発信を行う。
- ・ 他団体・個人と協働した「御堂筋サイクルピクニック」・「おおさか自転車文化タウンづくりの会」の実施を通じて、大阪における自転車まちづくりの推進を図る。

35 自転車文化

37 タンデム自転車

29 CCSP

23 西中島自転車

## ②実施内容

- ・自治体等からの依頼により、子ども自転車教室、インクルーシブサイクリング体験会などを企画、実施（新型コロナウイルスの影響で中止・延期もある）。
- ・9/19に御堂筋サイクルピクニック（自転車文化タウンづくりの会）を予定していたが、台風襲来のため中止した。改めて、サイクリングツアーを企画予定。

項目	内容	日程	参加人数
自転車文化タウン	第17回御堂筋サイクルピクニック	9月19日	中止
市民自転車学校プロジェクト	堺区子ども自転車教室	7月30日	100人
		9月10日	80人
		11月26日	70人
		2月4日	70人
		3月4日	90人
	滋賀県子ども自転車教室（希望ヶ丘）	10月22日	20人
	京都市インクルーシブサイクリング体験会	11月3日	60人
	滋賀県日野町子ども自転車教室	11月8-9日	60人
インクルーシブ・サイクル	スマイル タンデム自転車貸し出し	10月14日	30人
	タンデム自転車の貸し出し	通年	

## ④ 成果と課題、今後に向けて

- ・新型コロナ対策を行いつつ、子ども自転車教室やインクルーシブサイクリング体験会を開催することができた。
- ・全国的にニーズが高まっており、対応できる体制づくりが求められている。

## 3. 安全再生：防災まちづくりの推進

33 親子防災

15 災害支援

### ①事業のねらい

38 防災まちづくり

- ・大阪湾岸地域は、典型7公害の1つである地盤沈下のために、津波や水害のリスクが高くなっており、南海トラフ巨大地震や近年頻発している水害などの災害に備え地域の防災力を高める必要がある。そのために、西淀川地域をはじめ、各地区の多様な主体と協働し、防災まちづくり、防災教育の取り組みを進める。

### ②実施内容

- ・西淀川区令和4年度地域防災・減災に関する連携強化事業を受託し、①若年層への防災意識向上への取り組み、②避難行動要支援者避難支援の取り組み、③企業連携による防災力向上の取り組みを行っている。あおぞら財団が培ってきた地域防災に関するネットワークや教材（防災絵本やかるた等）を用いて事業を遂行している。
- ・外部の組織と連携して活動している「にしよど親子防災部」（事務局：あおぞら財団）では、防災散歩や地域イベントに参加し、防災の啓発活動を積極的に実施している。

項目	内容	日程	参加人数
西淀川区地域 防災・減災に関	①若年層への防災意識向上への取り組み ・大和田小学校 防災講習会 ・大和田小学校 防災授業 ・淀中学校 防災講習会	8/29	20人
		10/23	225人
		9/29	5人

する連携強化事業	・淀中学校 防災授業 (中2)	10/31	150人
	・淀中学校 防災授業 (中3)	11/18	150人
	・淀翔モール 防災かるた	12/10	100人
	・段階的防災教育プログラムの作成		
	・動画作成 (15分×2本、1分×5本)		
	・クラフト防災パーク	2/26	290人
	②避難行動要支援者避難支援の取組み		
	1回目 会議	6/3	
	2回目 会議	8/8	
	3回目 会議	10/4	
	4回目 会議	12/5	
	5回目 会議	2/7	
	③企業連携による防災力向上	アンケート実施	
防災教育	喜連西小学校防災授業(環境事業協会から依頼) 防災かるたを用いた授業	10/19	66人
	大阪区民カレッジ城陽校(環境事業協会から依頼)	10/25	40
にしよど親子 防災部	ミーティングの開催	4/25、7/7、 9/14、 10/31、2/13	約10人
	防災散歩	4/6 10/16	9 22
	ボランティアエキスポ	5/28	100
	西淀川区小中校長会にて防災かるたの紹介	6月	
	区民まつり:雨ガッパづくりWS	9/17	70
	みてアート出展:展示、雨ガッパづくりWSなど	11月	100
	クラフト防災パーク出店:マスクづくりWS	2/26	290人

### ③成果と課題、今後に向けて

- ・西淀川区地域防災・減災に関する連携強化事業では、今年度は段階的防災教育プログラム西淀川モデルを大和田小および淀中で試行的に実施し、次年度以降は西淀川区全体への取組みに拡充する予定である。
- ・にしよど親子防災部は活発な活動を行っているが、新しいメンバーの確保、活動の財源の確保が課題である。

## 4. 健康再生：地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及

61 公健法実態調査

### ①事業のねらい

62 COPD プロジェクト

- ・呼吸ケア・リハビリテーションに係る医療従事者等の人材を育成・活用することで地域の患者へのプログラムの充実及び地域住民への COPD に係る情報発信を強化し、これにより COPD 患者の早期発見及び QOL の向上を図ることを目的とする。

### ②実施内容

- ・呼吸器疾患の患者向けに「楽しく呼吸会」を隔月開催し、自己管理、運動、栄養、薬などの面から呼吸ケア・リハビリが学べるプログラムを実施した。
- ・環境省からの委託を受け、公害健康被害補償法（公健法）被認定者の療養生活に係る調査業務の受託、全国から 30 名の被認定者にヒアリングを実施。

項目	内容	日程	参加人数
楽しく呼吸会	みんなで歩こう 矢倉公園→雨天のため「お話し会、DVD をみながら呼吸筋ストレッチ体操」に変更	5/13	10人
	自己管理・呼吸筋ストレッチ体操（グリーンルーム、オンライン）	7/8	13人
	栄養について（グリーンルーム、オンライン）	10/7	8人

	呼吸リハビリ、運動、体力測定（グリーンルーム、オンライン）	11/11	10人
	お話し会、DVDをみながら呼吸筋ストレッチ体操（グリーンルーム）	1/20	8人
	薬について（グリーンルーム）	3/10	

### ③成果と課題、今後に向けて

- ・患者向けの呼吸ケア・リハビリテーションについては、コロナ禍でもできる取り組みとして、びわこリハビリテーション専門職大学の千住先生など外部の協力を得ながら、オンラインを活用した勉強会を実施することができた。
- ・公健法被認定者の療養生活に係る調査を通して、中壮年層の公害患者の療養生活の実態やニーズ、就労に与える影響等を把握することができた。今回の調査の成果は環境省や環境再生保全機構、当財団の呼吸ケア・リハビリ事業などに活かしていく。

## 5. 交流再生：地域の交流（コミュニティ）再生、交流拠点の活用

### 1) 交流拠点

#### ①事業のねらい

- ・西淀川の魅力発信、地域の内と外の人が出会い、交流し、そのことで地域再生に資する場とする。

#### ②実施内容

- ・公益性ある事業として、地域交流の場をどのようにつくっていくか検討をおこなった。

#### ③成果と課題、今後に向けて

- ・公益性ある事業を今後展開していくため、事業内容について引き続き検討をおこない、あらたに公益認定の申請をおこなうこととした。

### 2) 交流拠点（イコバ）

#### ①事業のねらい

#### 31 交流拠点（イコバ）

- ・2010年12月に開設した地域交流スペース「あおぞらイコバ」を活用し、定期的な企画展やイベント開催、ホームページやチラシなどの情報発信によって、認知度を高め、利用者増を図る。

#### ②実施内容

- ・レンタルスペースとして随時貸出をおこなっている。感染予防のため、消毒液の設置、使用前、使用後の清掃などをおこなっている。
- ・あおぞら市は、テイクアウトのみにするなど、感染対策をとりながら、毎月第二、第四水曜日に実施した。安価な手作り野菜、天然酵母パン、マッサージなどの出店者がおり、利用者には好評だった。
- ・小学生や中学生に学習支援をおこなっている「無料塾」に、あおぞらビル3階や5階を毎週金曜日の夕方に、無料で貸し出しをおこなった。
- ・あおぞらイコバは、9月からは「にほんごカフェ」（主催：西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画、西淀川ささえあいプラン「にしよどウエルカムバンク」）による利用が始まった（月2回）。12月からは、西淀川地域の情報発信をおこなう「ニシヨド編集部」の利用が始まった（毎週1回）。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 「にほんごカフェ」や「ニシヨド編集部」といった新たな定期利用を増やすことができた。今後は、さらに利用率を上げたり、あおぞら市の集客を上げるよう広報をおこなっていく。

## 6. 文化再生：西淀川の資源を活かした環境文化をつくる

### 1) みてアート

81 みてアート

①事業のねらい

- ・ 西淀川を市民が地域（フィールド）全体から地域の歴史、文化、ものづくりを楽しむことができるフィールドミュージアム構想の具体化事業の一つとしてアートイベント「みてアート」、「西淀川アートターミナル（NAT）」を実施。アートをきっかけに、西淀川地域の様々な資源を掘り起し、西淀川区の人達が出会い交流し、新たな地域文化を育むことを目指して、地元企業や様々な団体・個人と協働して開催。

②実施内容

- ・ NAT 企画展「CANVAS CHALLENGE 03」（8月25日～29日）
- ・ NAT 企画展「待合室」（9月16日～20日）
- ・ みてアート 2022 を 11月5-6日、緑道アートギャラリー（11月3日～7日）開催
- ・ NAT 企画展「い・き・の・ね - VERSE TERMINAL -」（3月25日～4月3日）開催

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 10年を迎えたみてアートは新たな体制を整え、引き続き、市民参加型アートイベントとして継続していく。

### 2) 身近な自然を活かしたイベント

25 身近な自然イベント

①事業のねらい

- ・ 西淀川の身近な自然を活かしたイベントを通じて、多くの人が西淀川地域の自然環境や歴史に触れる機会をつくる。

②実施内容

- ・ 「矢倉海岸・緑陰道路探鳥会」は4月16日（11人参加）、10月22日（13人参加）、3月4日に実施。探鳥会を西淀川区と民間企業等との協働事業として実施することになり、区報を活用して広報を行った。
- ・ 「第10回淀川環境美化・西淀川親子ハゼ釣り大会～SDGsをはじめのさいしょの一步」を9月24日（土）に開催。約80名の参加があり、楽しみながら身近な自然から学ぶ場として地域に定着しており、引き続き開催予定である。
- ・ 「矢倉緑地プラスチックごみゼロアクション」（西淀川区主催、3月29日）に協力し、鳥の観察の講師（日本野鳥の会大阪支部）のコーディネートを行った。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 探鳥会は、区報への掲載が続き参加者が増え、関心が高まっており継続していく。
- ・ ハゼ釣り大会は、引き続き、実行委員会形式で他団体と協働で継続していく。
- ・ 矢倉緑地での環境イベントは、これまでにあおぞら財団で実施してきた環境プログラムやネットワークが活用されており貢献している。子ども達の参加も増え、区役所と協働で継続していく。



### 3) 菜の花プロジェクト

22 菜の花

#### ①事業のねらい

- ・ 持続可能な社会づくりを目指して、「エコでつながる西淀川推進協議会（事務局：浜田化学）」と協働で、西淀川菜の花プロジェクトとして、廃油回収システムを継続し、菜の花栽培などの啓発活動を適宜、実施する。

#### ② 実施内容

- ・ 継続的に廃油回収拠点として回収事業を実施している。
- ・ 2022年度（4月～12月）の廃油回収量は2,770ℓ（前年度3,440ℓ）

#### ③ 成果と課題、今後に向けて

- ・ 継続的に廃油を持参してくれる人がおり、環境負荷を減らす取り組みとして定着している。引き続き、取り組んでいきたい。

### 4) 西淀川区まちづくりセンター業務

27 まちセン

- ・ 令和4年度「大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業」を街角企画株式会社、有限会社OM環境計画研究とともに受託。西淀川区まちづくりセンターの設置・運営し、アドバイザー藤江、スタッフ（鎗山・谷内）として区内地域活動を支援。

11 JEC 管理

26 地域づくり推進

34 啄木鳥プロジェクト

39 太陽光発電

82 多文化共生

83 嘉手納

### 5) その他

- ・ 西淀川の良さや面白さを SNS 等で発信・共有する「おもしろいわ西淀川」を行っている。西淀川区の魅力発信サポーターとの連携もしており、西淀川区の広報紙に隔月で連載している。
- ・ 新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援助成（休眠預金）の資金分配団体として、認定 NPO 法人日本都市計画家協会（JSURP）とともに業務を受託した（2022年度・2023年度）。実行団体の募集・審査等をおこない、伴走支援に取り組んだ。
- ・ 西淀川地域福祉計画（あい♡あいプラン）における、ウエルカムにしよど（多文化共生）プロジェクトに参加（担当：藤江）、にほんごカフェを月二回（昼と夜）開催。
- ・ 日本環境会議（JEC）の会員・会費管理の業務を 2020 年度より請け負っており、2022 年度も引き続き業務を行った。
- ・ グリーンアクセスプロジェクト（主催：大阪大学法学研究科大久保則子教授）の市民参加・協働条例データベースの更新作業を行った。
- ・ 嘉手納爆音問題に関する調査への協力を行った。

## II-2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

### 2022 年度の目標

- COVID-19 など感染症の広がりによって、対面での講義やフィールドワークの依頼が減っている。感染のリスクを回避できる研修のあり方や、社会の変化に応じた研修内容を検討する。
- 2022 年度からの「総合的な探究の時間」に対応するために、大阪府立千里高校での実績を踏まえてロールプレイ教材の解説資料作成とWEBでの発信に取り組む。
- 資料館業務については、資料集の作成を進めるとともに、日常的な業務（資料整理・保存・活用）を見直し、持続可能な体制づくりを図る。COVID-19 感染予防を図りつつ、受託業務として、記録で見る大気汚染と裁判 HP、淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用業務などを進める。

### 2022 年度取り組み

#### 1. 公害教育・研修センター機能の強化

##### 1) 教育・研修の推進

##### (1) 講師派遣・研修受入

52 教育・研修推進

##### ①事業のねらい

- ・ 公害の経験から学ぶ研修の打ち出しを軸にしつつ、あおぞら財団の活動を総合的に生かした講師派遣・研修受入の可能性を探る。※COVID-19 など感染症のリスクを考慮しながら、オンライン講座等 WEB の有効活用を検討。ポストコロナ社会の変化に応じた研修内容を検討する。
- ・ 地域再生の取り組みや、防災研修・(一社)市民自転車学校プロジェクト(CCSP)などのまちづくり事業の蓄積を積極的に活用し、人材育成に取り組むとともに、理事等の協力を得る。
- ・ 環境再生保全機構職員研修や自治体職員研修を実施することを追求する。
- ・ 研修受入については、主に近畿圏の大学教員への発信・働きかけを強め、新規開拓をする。
- ・ 国際交流事業と連携し、研修資料等の英語版作成を検討する。

##### ②実施内容

- ・ 講師派遣 年間派遣数 16 件(前年度 15 件)、受講者 1322 人(前年度 159 人)

分野	内容	日程	人数
公害	淀川勤労者厚生協会 新人研修(藤江)	4/5	25
その他	東大阪市「助成金申請のコツ伝授講座」(藤江)	4/9	
交通	大阪大学交通まちづくり学(谷内)	5/9, 5/23	のべ 80
その他	ECO ねっとよどがわ「助成金申請のコツ伝授講座」(藤江)	5/11	
交通	甲南中学校「フードマイレージ」(谷内)	5/27	80
都市	桃山学院大学・都市政策論(藤江)	7/15	
環境	龍谷大学「気候変動ワークショップ」(谷内)	7/27	26
公害	龍谷大学清水ゼミ(谷内)	8/1	5
公害	大阪市新任教員研(北区・都島区・福島区)(栗本)	8/19	70
交通	静岡市環境大学 2022「フードマイレージ」(栗本)	8/20	20
公害	大阪市新任教員研(西淀川区、港区、此花区)(栗本)	8/22	80

防災	喜連西小学校「環境と防災」(谷内)	10/19	66
防災	大阪区民カレッジ城陽校「環境と防災」(谷内)	10/25	40
防災	淀中学校3年生対象防災授業(多田(アルバイト))	10/31	400
防災	淀中学校2年生対象防災授業(多田(アルバイト))	11/18	400
公害	龍谷大学社会政策学部石原ゼミ「公害と市民活動」(谷内)	11/25	30

・研修受入 年間受入数 10 件：前年度 4 件、受講者 120 人（前年度 94 人）

分野	内容	日程	人数
公害	追手門学院大学藤吉ゼミ(藤江・鎗山)	5/14	15
防災	関西大学越山研究室(藤江・谷内)	6/29	10
公害	立命館大学石橋ゼミ(藤江・谷内)	9/2	18
公害	龍谷大学清水ゼミ(藤江・谷内)	9/5	12
地域づくり	龍谷大学清水ゼミ ゼミ活動(藤江・谷内)	8月~3月	12
公害	西淀川区保健センター、大阪公立大学医学部医学科(谷内)	9/7	6
公害	関西大学社会学部大門ゼミ(藤江・谷内)	10/17	11
防災	環境省職員研修(藤江・鎗山・谷内)	10/27-28	15
地域づくり	大阪公立大学大学院「都市基盤計画特論」(吉田長裕准教授)	11月~3月	9
公害	追手門学院大学社会学部2年生	12/17	12
公害	法政大学法学部政治学科杉崎ゼミ	3/30	

### ③成果と課題、今後に向けて

- ・龍谷大清水ゼミ、公立大「都市基盤計画特論」のように、西淀川をフィールドにして長期にわたった教育・研究活動の取組みが増えた。これらの取組みでは、西淀川公害を含む過去、現在の調査をもとに、未来に向けた提案を行っている。これらの成果は学生の成果物としてとどめるのではなく、あおぞら財団、西淀川区が活用することもできるものである。
- ・公害だけでなく、防災や地域づくりなどと連携した講師派遣や研修受入が増えている。こうした成果をブログやりべら等で発信し、今後もこうしたあおぞら財団としての強みを生かした講師派遣、研修受け入れの増加につなげる。

## (2) 学校・地域における公害教育の推進

### ①事業のねらい

- ・資料館が西淀・環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」の認定施設であることを活用し、引き続き大阪市・府・国などに、公害の経験を伝える教育を位置付けるよう働きかける。
- ・公害教育の担い手を育成するため、教員研修への講師派遣や独自企画を検討する。
- ・引き続き西淀川区内の小学校での出前授業を実施する。
- ・まちづくり部門と連携して、西淀川区内の中学高校とのつながりを強化する。
- ・西淀川高校(2018年度で統合)の環境科の実績が、淀川清流高校でも引き継がれるよう、資料や教材の提供について引き続き働きかけを行う。

### ②実施内容

- ・「体験の機会の場」HP掲載内容、その他取り組みについて調整。
- ・西淀川区小学校校長会にて、公害語り部の出前授業について紹介。

公害	福小学校大野川緑陰道路しらべ学習	11/15	20
公害	柏里小学校 社会科授業 公害語り部	2/22	40

### ③成果と課題、今後に向けて

- ・公害語り部の授業を再開し、柏里小学校で実施することができた。次年度以降も、小学校へのはたらきかけを行い、公害語り部の授業を継続して行う。

## 2) 教材開発・研修プログラム等の整備・普及

54 気候変動  
プログラム

### (1) 西淀川公害に関する教材開発・研修プログラムの整備

#### ①事業のねらい

- ・ 2022年度からの「総合的な探究の時間」に対応するために、大阪府立千里高校での実績を踏まえつつ、「持続可能な開発目標（SDGs）」達成の担い手育成のため、ロールプレイ教材を活用した研修プログラム・解説資料作成に取り組む。その成果はWEBで発信する。その際、COVID-19など感染症の社会への影響についても視野にいった内容を検討する。
- ・ 教材を提供する際、寄付による支援の呼びかけ等も検討する。

#### ②実施内容

- ・ 地球環境基金を受けて「誰ひとり取り残さない！ 気候変動を構造的にとらえ未来につなげる教育プログラムづくり」に取り組んでいる。活動内容は「1) 気候変動×防災×公害を学ぶ教育プログラムの開発」「2) 公害の経験から、課題解決の行動に向けた市民教育プログラムの開発」「3) 『誰一人取り残さない』ための教育手法の検証」である。

項目	内容	日程
気候変動を構造的にとらえ未来につなげる教育プログラムづくり	1) 気候変動×防災×公害を学ぶ教育プログラムの開発 ・ハンドブックの改訂 ・研修・教育部門の web ページ	研究会 12/15
	2) 公害の経験から、課題解決の行動に向けた市民教育プログラムの開発 研究会 ・清水ゼミと共同で動画作成（患者会） ・谷弁護士動画およびオーラルヒストリーの作成	研究会 10/4
	3) 『誰一人取り残さない』ための教育手法の検証 研究会 ・人権と公害をつなぐハンドブックの作成	研究会 7/2、8/27

#### ③成果と課題、今後に向けて

- ・ 「気候変動×防災×公害を学ぶハンドブック」、西淀川公害の動画、オーラルヒストリー等の教材を作成した。最終年度である2023年度は、これらの教材の活用方法や広め方などを検討していく。

### (2) 公害に係る「オーラルヒストリー」作成業務

51 オーラルヒストリー

#### ①事業のねらい

- ・ 公害に係る当事者への聞き取りを行い、まとめ、環境行政に取り組む人たちを主な対象とした研修副読本を作成する。

#### ②実施内容、③成果と課題、今後に向けて

- ・ 2022年度は井上善雄氏の聞き取り調査を実施中。

### (3) 他の公害地域で行う公害学習・ESDの支援

- ・ 2022年度は実施なし。

#### (4) 教材等の貸出

56 教材・パネル貸出

##### ①事業のねらい

- ・ 「フードマイレージ買い物ゲーム」の貸出を引き続き行う。

##### ②実施内容、③成果と課題、今後に向けて

- ・ 引き続き、貸し出しや講師派遣を行っていく。

## 2. 西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）の運営

### 1) 西淀川・公害と環境資料館の資料管理・資料活用をすすめて、利用者を増やす

41 資料館運営

42 資料館基金

48 資料集作成

##### ①事業のねらい

- ・ 西淀川・公害と環境資料館が日常的に運営を継続する。そのために、西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）の資料の整理を進める。
- ・ 資料館を地域の人に使ってもらう、関心をもってもらえるよう、みてアートなど地域イベントへの参画、地域資料を用いた企画展の開催などを行う。
- ・ 資料館が有する既存資料をもとに、資料館にどのような資料があるのか、その資料からどのようなことが分かるのか、を改めて、広く知ってもらうため、また、多くの方に資料を活用してもらえるように資料集の作成を行う。
- ・ 資料集の作成にあたっては、もと柏里診療所を分室として活用し、資料集作成委員会にて、編集方針などを検討。時代別、または、テーマ別（例えば、都市公害）に資料整理を進め、継続的に資料紹介を行う。
- ・ 淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用業務に関しては、COVID-19の感染予防に配慮した上で、資料の整理・保存・活用を検討する。

##### ②実施内容

- ・ 来館者 2022年度 595人 累計（2006年開館から） 6,367人
- ・ 資料の整理・目録作成作業、文書箱への移し替えを順次進めた。  
入力点数 大目録 302（累計 2,888）、細目録 172（61,386）
- ・ 資料集作成に向けて、エコミュージズ所蔵の資料を検討する勉強会を2021年10月から月1回のペースで行っている。4/19、5/23、6/20、8/4、9/29、10/24、11/28、12/23、1/27、2/21、3/17
- ・ 専門家からなる「資料集編集委員会」を開催し、資料集について検討を行っている。メンバーは小田館長、佐賀朝氏（大阪公立大学教授）、松岡弘之氏（岡山大学講師）。4/25、6/27、8/22、10/31、1/16、
- ・ 11/5-6 みてアート2022に拠点として参加し、企画展「絵画とポスターに見る西淀川公害とその地域」を開催し、約360人が来館した。
- ・ 『エコミュージズ活動報告書』を6年ぶりに発行した（2022年12月）。これは、2016年度～2021年度の活動内容をまとめたもので、第7号となる。また、それに先立って、10/13には、運営協議会を3年ぶりに開催し、資料館の活動について意見交換をおこなった。

##### ③成果と課題、今後に向けて

- ・ 資料目録の作成について、未整理の資料は、ほぼ無くなった。あとは新規で受け入れた資料や、所在確認の必要なもののみとなったことは大きな前進である。

- ・ 「みてアート」に資料館として参加し、絵画等を展示したことで、多くの人たちに来館いただいた。引き続き、資料館の存在を知ってもらえるよう、企画展などを開催する。
- ・ 資料集の作成にあたっては勉強会および編集委員会を重ね、2月からは小田康徳館長が毎週1回のペースで来館し、作業を進めたことで、資料選定はかなり進めることができた。
- ・ 今後は、資料集の完成に向けて準備を進めていく。

## 2) 公害資料館ネットワークに参画し、公害資料の保存と活用を推進する

43 資料館連携

### ①事業のねらい

- ・ 各地での公害を伝える組織・個人の交流・連携・協働をめざす「公害資料館ネットワーク」に参画する。

### ②実施内容

- ・ 公害資料館ネットワーク総会（6/25 オンライン参加）・幹事会への参加。
- ・ 「公害資料館バザール」という企画で各館の紹介動画を制作することになり、「西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）」として、撮影に協力した。

### ③成果と課題、今後に向けて

- ・ 「公害資料館バザール」の動画が完成したので、エコミューズの紹介に活用していく。

## 3) 各地の公害地域の資料整理・保存・活用を支援する

44 大気汚染と裁判HP

### ①事業のねらい

- ・ 環境再生保全機構のホームページサイト「記録で見る大気汚染と裁判」の充実、及び、他の公害地域資料の整理・保存・活用を支援する。
- ・ 同HPサイト上での個人情報保護資料のあり方について、検討・提案する。

### ②実施内容

- ・ 環境再生保全機構と適宜、協議を行った。

### ④ 成果と課題、今後に向けて

- ・ 引き続き、資料の公開に向けて協議を重ねていく。

## II-3 公害経験を伝える国際交流

### 2022年度の取組み

- アジア地域への新たなネットワーク・交流に向けて、取り組む。
- これまで交流してきた中国の環境NGOの現在の取組み・これからの展望を把握し、あおぞら財団の国際交流活動における経験知としてとりまとめる。
- 国内外の公害・環境問題の専門家、NGO、個人との協働の下、資料の翻訳、情報発信、視察、交流、研修受入れなどを実施する。

71 国際翻訳基金

73 日中交流

### ① 事業のねらい

- ・ 西淀川地域、及び、我が国の公害経験を世界、とりわけアジア地域の多くの人達に伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、直面している公害・環境問題の解決に向けて取り組む。

② 実施内容

- ・ 中国：アジア研究会（オンライン）にて10月15日（土）、1月8日（日）に講演会を実施。
- ・ ベトナム環境 NGO から活動を紹介する寄稿を受ける。
- ・ HP「アジアの環境活動でつながろう！」にて、中国・ベトナムの取組みを掲載。
- ・ ミャンマー、タイ、インドなどアジアの環境活動の情報収集、交流を促す。

③ 成果と課題、今後に向けて

- ・ 昨年に引き続き、中国他とオンラインでの交流を行ない、情報発信のためのホームページを更新した。今後、新型コロナウイルスの状況次第で海外渡航が可能になれば、実施していく。また、アジア圏でのネットワークづくりを進める。

## III. 情報発信・提案活動・交流

---

### 1. 情報発信

#### 1) ホームページ、フェイスブック

【概要】ホームページでは、各事業の取り組みを中心に更新しており、フェイスブックとツイッターと連動させることで、情報を広く伝えられるように努めている。

【実績】ブログは110件の記事を更新している。フェイスブックページは1,221人、ツイッターは846人からフォローされている。

#### 2) メール、メーリングリスト

【概要】1か月間の活動報告及びイベント案内をまとめた「月刊あおぞら」を毎月1回発行している。また、イベントごとに「あおぞら express」を発行し、参加を呼び掛けている。

【実績】「月刊あおぞら」、「あおぞら express」2,264人に発行している。

#### 3) 機関誌りべら

【概要】会員および西淀川区内の地域住民に対して、各事業の報告、財団の事業に関わる情報、行事のお知らせ、西淀川区の地域情報から構成する機関誌りべらを発行する。

【実績】2022年度は年3回発行(各2,000部)。7月号「2021年度あおぞら財団年次報告」、10月号「気候変動と防災」、2月号「特集：多文化共生」を発行。

#### 4) 年次報告書

【概要】財団の事業と活動をわかりやすく報告するため、財団事業の1年間の事業概要と各事業における特徴的な事業を取り上げた年報を発行し、賛助会員への配布、HP上での公開を行う。

【実績】機関誌りべらとして発行することにより、西淀川地域住民にあおぞら財団の活動内容を伝えることをめざした。事業ごとに2022年度の取組みを2ページで紹介した。また、財団役員および協力者からの一言コメントをもらった。

### 2. 提案活動

- 各種計画へのパブリックコメントや選挙時の公開質問状提出などの提案活動、様々な公害・環境問題に関する情報、財団活動に関する情報の発信を進める。

### 3. 交流

- 各事業に個別に協力を得ている研究者のネットワーク化をはかり、財団が市民と研究者団体をつなぐパイプ役を果たせるような仕組みづくりをめざしている。
- 「おおさか環境ネットワーク」(大阪市環境局担当)に参加し大阪の環境団体との交流をすすめる。
- 公害被害者総行動デーは、オンライン開催となり運営の協力をおこなった。その他、2月の公害デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめる。



- 西淀川区との協働（西淀川区民間企業等との協働に関する提案事業）、気候ネットワークや公害環境デーの実行委員としての活動、日本野鳥の会、ECO まちネットワークよどがわをはじめとする地域の各種団体との協働、連携を続けている。

#### 4. 対外活動

- 西淀川区区政会議委員（鎗山、2017年～2020年、藤江、2021年～）
- 西淀川子どもセンター理事（藤江、2013年～）
- 社会福祉法人あゆみ福祉会評議員（村松）、理事（藤江）として参加
- 公益財団法人淀川勤労者厚生協会理事（藤江）として参加（2020年～）
- 西淀川区地域福祉計画推進委員（藤江、2018年～）
- 西淀川区子育てを応援する担い手育成・地域連携事業 委員（谷内、2018年度～）
- 向日市地域公共交通会議 委員（谷内、2014年度～）
- 城陽市地域公共交通会議 委員（谷内、2016年度～）
- 香芝市地域公共交通会議 委員（谷内、2019年度～）
- 堺市地域公共交通会議、公共交通活性化協議会 委員（谷内、2020年度～）
- 大阪市路上喫煙対策委員会 委員（谷内、2020年度～）
- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員（藤江、2010年度～）
- 2021年公害環境デー実行委員（谷内）
- 西淀川フードバンク実行委員会（鎗山）

#### 5. 財団活動に関する主な報道、表彰・顕彰など

##### 1) 主な報道

日にち	報道機関	見出し
2022年4月6日 2022年6月4日	読売新聞（夕刊） 読売新聞	SDG's 未来への約束 タンデム自転車 全国駆ける コロナ警告 ゆらぐ対人関係（5）
2022年11月30日	NHK ラジオ	ラジオ第1「関西ラジオワイド」 「にしよどおやこぼうさいかるた」および「防災さんぽ」の紹介
2か月に1回 2022年11月11日 ～11月17日	きらりにしよど ベイコム	「おもろいわ西淀川」を掲載 週刊 Bay ニュース：みてアート 2022 を紹介

##### 2) 表彰・顕彰など

- なし

## IV. 組織

---

### 1. 理事会、評議員会

- 理事会＝第 41 回（2022 年 5 月 31 日）、第 42 回（2022 年 10 月 4 日）、第 43 回（2023 年 3 月 1 日）
- 評議員会＝第 12 回（2022 年 6 月 15 日）

### 2. 事務局（研究員・特別研究員）

- 運営体制の充実のため、理事長・理事・事務局長等が参加する常務会を定期的開催し、全体方針の検討をおこなった。
- 新型コロナウイルス感染予防のため、適宜、リモートワークを行う中、毎週 1 回の事務局会議でも ZOOM アプリを活用したオンライン会議を実施。事前の議事提案と進行を事務局長が行い、記録を作成し、事務局全体で情報を共有し、事業の進捗状況や今後の事業展開、重要事項の素案づくり、業務体制に関する調整、組織運営のあり方、職員研修などを全員で討議した。
- 2020 年度 10 月に設置した外部相談窓口（桑野里美氏）の継続
- 2022 年度は 3 名の研究員（正職員）、1 名の特別研究員の体制で取り組んだ。

### 3. 会員

- 会員数は個人 112（120 口）、・学生 1（1 口）・法人 14（32 口）、・団体 9（27.5 口）で、受取賛助会費は、1,022,000 円だった。（2023 年 3 月 31 日時点）

### 4. ボランティア、アルバイト・スタッフ

- ボランティアについては、「りべら」発送など具体的に業務のある際にメール通信「あおぞら EXPRESS」を活用し参加を呼びかけている。
- 研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、活動を進める上で大きな力となっている。

### 5. インターンシップ

- インターンシップ制は、大学コンソーシアム京都から 1 人（京都文教大学）、大阪経済大学から 1 人を受け入れた。アートイベント、サイクルピクニック、資料館等の事業に参加した他、自分の関心分野についての調査、提案に取りくんだ。
- 公益信託アジア・コミュニティ・トラスト事務局「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」を用いて、龍谷大学大学院政策学研究科博士後期課程の学生 1 人を継続的に受け入れている。

### 6. あおぞらビルの管理・メンテナンス

- 耐震診断（2017 年度）、検討会議（2018 年度）を受け、2019 年度、改修工事を行うための耐震計算を行った。今後の対応については検討中。